

がん、水…高校生が探究体験

崇城大教授ら指導 37人参加

熊本県内外の高校生が自ら選んだテーマで探究活動に取り組むイベント「ディスカバ！」が19日、熊本市西区の崇城大であった。生徒たちは高校ではあまり触れる機会のない、がんや薬

といったテーマについての研究を体験した。

イベントは、高校時代の探究活動を入試で評価する同大が昨年度から開催。教育プログラムを開発している「DISCOVERY

STUDIO」(東京)が協力した。この日は高校1～3年生の37人が参加。同大の教授と准教授が講師を務め、生徒たちはそれぞれの関心に沿って「食」「がん」「水」「薬」の4グループに分かれて取り組んだ。

がんについて研究するグループでは、細胞の特徴や予防法について調査。「高温に弱い」「無限に増え続ける」「バランスの良

い食事が予防につながる」などと発表した。大学の研究室やクリーンルームの見学もあった。

水をテーマにしたグループは、水質を可視化するため硝酸イオンの濃度などを測定。白川や坪井川の水質をきれいにするための方法も検討した。

第二高2年の伊東心華さん(嘉島町)は「がんの予防法など知ることができた。今後の学

校の探究活動に生かしたい」。N高3年の四ヶ所悠さん(福岡県大刀洗町)は「簡易キット以上に、より細かい数値を調べるためのいろいろな機械が大学にはあることが分かった」と話していた。

生徒らは今回取り組んだテーマをさらに深掘りし、8月上旬に成果を発表する。

(上野史央里)



「がん」をテーマに溶液を使って実験する生徒ら。19日、熊本市西区